

JR高架下に出現した超大型ビアホール

「ジャングル・ダ」〈大阪駅西口〉

大阪はキタのビジネス街にそろそろ夕暮の気配が漂いはじめる頃、1人、2人と集まってきた人々がたちまちのうちにながーい列を作る、不思議なスポットがある—そんな評判を聞いてやってきました。

場所はJR大阪駅西高架下。大阪中央郵便局の北側。キタのファッション街からはちょっとはずれたこの辺りには今までほとんど足を伸ばしたことがありませんでしたが、やっぱり並んでいました。時間はまだ午後4時。オープンまで1時間もあるというのにすでに70~80人もの行列。一体、どんな空間がこの高架下にあるのでしょうか。



レポーター／
楢垣 友見

ジャングルへ逃げ込め 都会の中の黄金郷

インド風民族衣装のような店員さんに案内されて店に入ると、天井には割出しの空調パイプが銀色にぶくぶく光り、ヤシのようなバナナのような熱帯樹木がうっそうと繁り早くも不思議な雰囲気です。ここが今、評判のビアレストラン、その名も「ジャングル・ダ」。英語の「ジャングル」と日本語の「だ」をつないだ造語で、「ジャングルへ行こう」とか「ジャングルへ逃げ込め」という呼び掛けを表すとか。そういえばさっきまで歩いてきた梅田界隈の光景が嘘のような、まったく別世界に迷いこんだような気分。驚いたことに店の中央には全長35メートルという大きな滝が豪快な音をたてて流れている。川の川を中心にして600席の客席は常時、満席。水と樹木という野性的な店内には、さらに幻想のジャングルを表現したという大きな壁画。これがまた独特の雰囲気を醸し出して、異次元のジャングルに逃げ込んできたような気分になります。

もともとはJR大阪駅西の長い高架下を利用した倉庫でした。ほとんど使われていなかったこの巨大な空間をもう一度生き返らせようということで誕生したのが、国内最大級のビアレストラン「ジャングル・ダ」。総面積600坪。オープン、1992年4月。テーマは「サイバー・エルドラド(電脳熱帯黄金郷)」ということで、都市生活者の自然回帰願望が現代都市空間の中で具体化した幻想空間を表しているそうです。



ダイナミックな滝を見ながら ビールと料理を満喫

ビアホールの楽しみはなんといってもおしゃべりと料理、それにおいしいビール。ここではダイナミックな滝と川の周辺で「乾杯」というわけですから、演出効果は満点です。おしゃべりも食欲も旺盛にならざるを得ません。このお店で見逃すことのできないのが「ラガービール樽詰め生ビール」。新詰めする直前の生ビールを工場から直送したという逸品です。

さて、お料理ですが、魚介類を中心とした「海辺のメニュー」、野性味たっぷりの肉料理「岩山のメニュー」、こんな本格料理がお手ごろ価格で気軽に楽しめるのも、ジャングル・ダの魅力のひとつでしょう。それに関西っ子には嬉しいおでん、お好み焼きなどの「オーサカ岸台スペシャル」なども…。



水と光と音で 心身ともにリフレッシュ

このジャングル・ダはジャングルを模しているとはいえ、ただそれだけではありません。600個の舞台用スポットライトがある時はブルーに、また黄金色にときどきまざまに表情を変えながら演出され、それに連動して音楽も変化してゆきます。まるで近未来の幻想の密林。とはいえ、ここは現実には高架下。時折、ジャングルの天井の上から電車の走る音が…。ダイナミックな滝の音とイメージ豊かな音楽と人々のざわめきやおしゃべり、それにこの電車の音がなんともいえず不思議なハーモニーを奏でていて、この広い店内をホントにエルドラドに連れていってしまおうです。さしずめ、計算されつくした照明群はエルドラドに降る星といったところでしょうか。

最近のエコロジーブームから水は空間演出の注目の的のようですが、思い切って「大河」を高架下という意外な場所に創ったところが大成功の秘密のような気がします。1日3回のジャマイカ出身バンドの生演奏も見逃せない。都会人の遊びゴコロと自然への憧れをたっぷり満足させる企画がとにかく盛りだくさん。都市のストレスにちよっぴり疲れた現代人にはピッタリのリフレッシュゾーンといえるでしょう。まさに「ジャングルへ逃げ込め」です。ここを中心としてJR周辺がどんどん変わっていく予感があります。もしかしたら本当に都市の「黄金郷」になるのかも…。さうは近未来のOSAKAを一足先に実感した1日でした。

